飯島陣屋だより

No. 8
1997.7

発行／飯島町歴史民俗資料館　〒399-37 長野県上伊那郡飯島町飯島2309-1　☎0265-86-4212

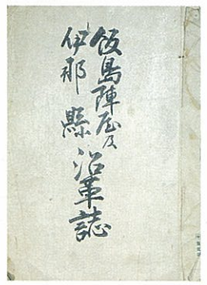
記念碑「飯島陣屋並びに伊那県治遺蹟碑」

江戸時代、幕府の代官陣屋だった飯島陣屋は、幕府が倒れた後は新政府によって伊那県の県庁とされました。しかしその後伊那県は明治四年に廃止されてしまいます。

伊那県廃止から四十年が経った大正のはじめ、地元の有志たちの間で、飯島陣屋・伊那県庁の史跡を長く後世に伝えるために記念碑を建てようという動きが生まれました。有志たちは、飯島尋常高等小学校教員の林源次郎に陣屋・県庁の歴史調査を依頼し、これをもとにして、岡谷出身でかつて伊那県につとめた経歴を持つ渡辺国武を東京に訪ね、記念碑の撰文を依頼しました。渡辺は、兄の千秋とともに伊那県の職員から栄進を遂げ、大蔵大臣などを歴任した人物です。碑文の筆を執ったのは、書家の柳田泰麓でした。

この記念碑は大正四年に建立となりました。以来今日まで、この史跡を見守りつづけています。

上：飯島陣屋並びに伊那県治遺蹟碑
右下：記念碑前での式典（昭和35年）
左下：「飯島陣屋及び伊那県沿革誌」（小林幸平家文書）



林源次郎の研究をもとに

記念碑には、この地がたどった歴史が漢文で刻まれています。この文面のもとになったのは、林源次郎の「飯島陣屋及び伊那県沿革誌」でした。林は、飯島尋常高等小学校の教員をつとめる傍ら史料収集・研究に励み、飯島の郷土史や飯島陣屋・伊那県庁の研究の礎を築いたのです。

伊那県発行の信濃全国通用銭札を受贈

五月二十四日、愛知県春日井市の久保田卓徳さんから、伊那県発行の「信濃全国通用銭札」が寄贈されました。

信濃全国通用銭札は、明治二年十月に、伊那県と信濃国内の十四の藩が共同で発行した紙幣です。

幕末から明治維新の時期、小額の通貨が不足していたところへ、信濃国に贋（にせ）二分金が大量に入り込み、経済は混乱状態に陥ってしまいました。激高した民衆は各地で騒動を起こしています。

このような危機的状況を乗りきろうと発行されたのが、信濃全国通用銭札です。しかし、中央集権的な貨幣制度の確立を急いでいた政府によって、わずか半年ほど流通しただけで通用停止、回収となりました。

信濃全国通用銭札（上段が表）
「一貫二百文」「六百文」「百文」の銭札の裏には、それぞれ伊那県会計方の証印があり、飯島陣屋の跡に置かれた伊那県の役所で発行されたものと確認できます。

お陣屋トピックス　平成9年1月～6月

鬼は外！　福は内！

2月6日、飯島保育所・東部保育所の園児たちが陣屋で豆まきをし、鬼もたじたじに退散してしまいました。

ほかにも歴史民俗資料館にたくさんの寄贈がありました。

機織り機（西尾光伯様）／**古銭77枚**（北原政和様）／**たんす、五徳ほか**（宮坂明枝様）／**ほろ帯**（大沢千恵子様）／**機織り機**（小川しげ子様）／**機織り機**（中島淑雄様）／**機織り機**（小川しげ子様）

※このほか、大勢の方からいろりで使う薪をいただきました。ありがとうございました。

刊行物のご案内

飯島町誌
上巻（自然・原始古代）…四千円
中巻（中世・近世）…四千五百円
下巻（現代・民俗）…四千五百円
※三巻セット一万円

飯島陣屋ブックレット…各三百円
西沢淳男著「お役人」
高木俊輔著「伊那県時代」
村上　直著「江戸幕府の天領」

飯島町文化財写真集……各三百円
第一集「西岸寺・聖徳寺」
第二集「白院禅師遺墨集」
第三集「町内の文化財」

［良書紹介］村上　直著『江戸幕府の代官群像』（同成社）

私利・私欲を離れ、民意をくみながら仁政を行った江戸幕府の郡代・代官たち。飯島代官をつとめた羽倉外記についても紹介されています。

休館日（平成9年）

○が休館日です

7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	⑦	8	9	10	11	12
13	⑭	15	16	17	18	19
⑳	㉑	22	23	24	25	26
27	㉘	29	30	31		

8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	④	5	6	7	8	9
10	⑪	12	13	14	15	16
17	⑱	19	20	21	22	23
24	㉕	26	27	28	29	30
31						

9月

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
7	⑧	9	10	11	12	13
14	⑮	⑯	17	18	19	20
21	㉒	㉓	24	25	26	27
28	㉙	30				

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
5	⑥	7	8	9	⑩	11
12	⑬	14	15	16	17	18
19	⑳	21	22	23	24	25
26	㉗	28	29	30	31	

11月

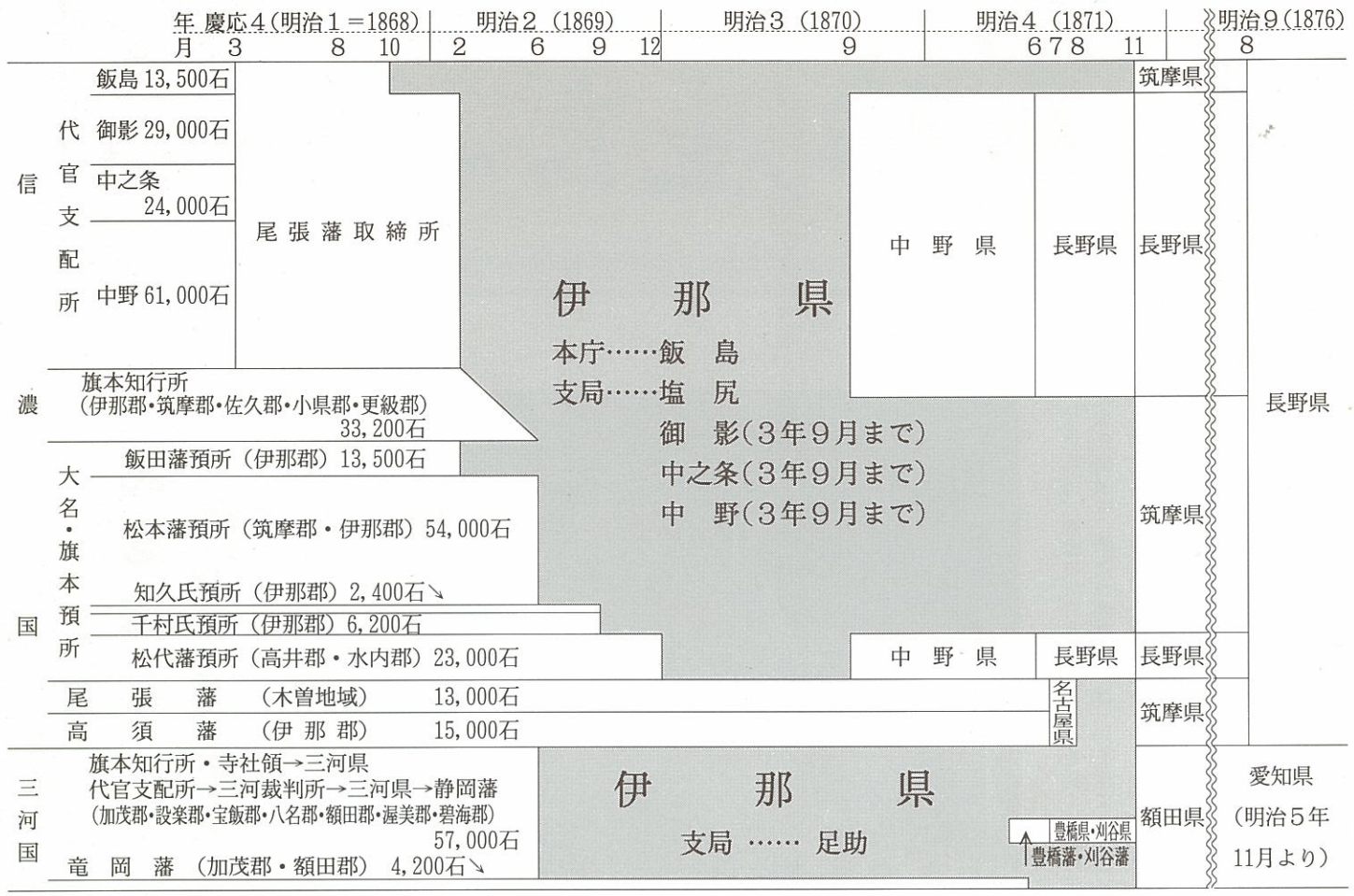
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	③	④	5	6	7	8
9	⑩	11	12	13	14	15
16	⑰	18	19	20	21	22
㉓	㉔	25	26	27	28	29
30						

12月

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
7	⑧	9	10	11	12	13
14	⑮	16	17	18	19	20
21	㉒	㉓	24	25	26	27
㉘	㉙	㉚	㉛			

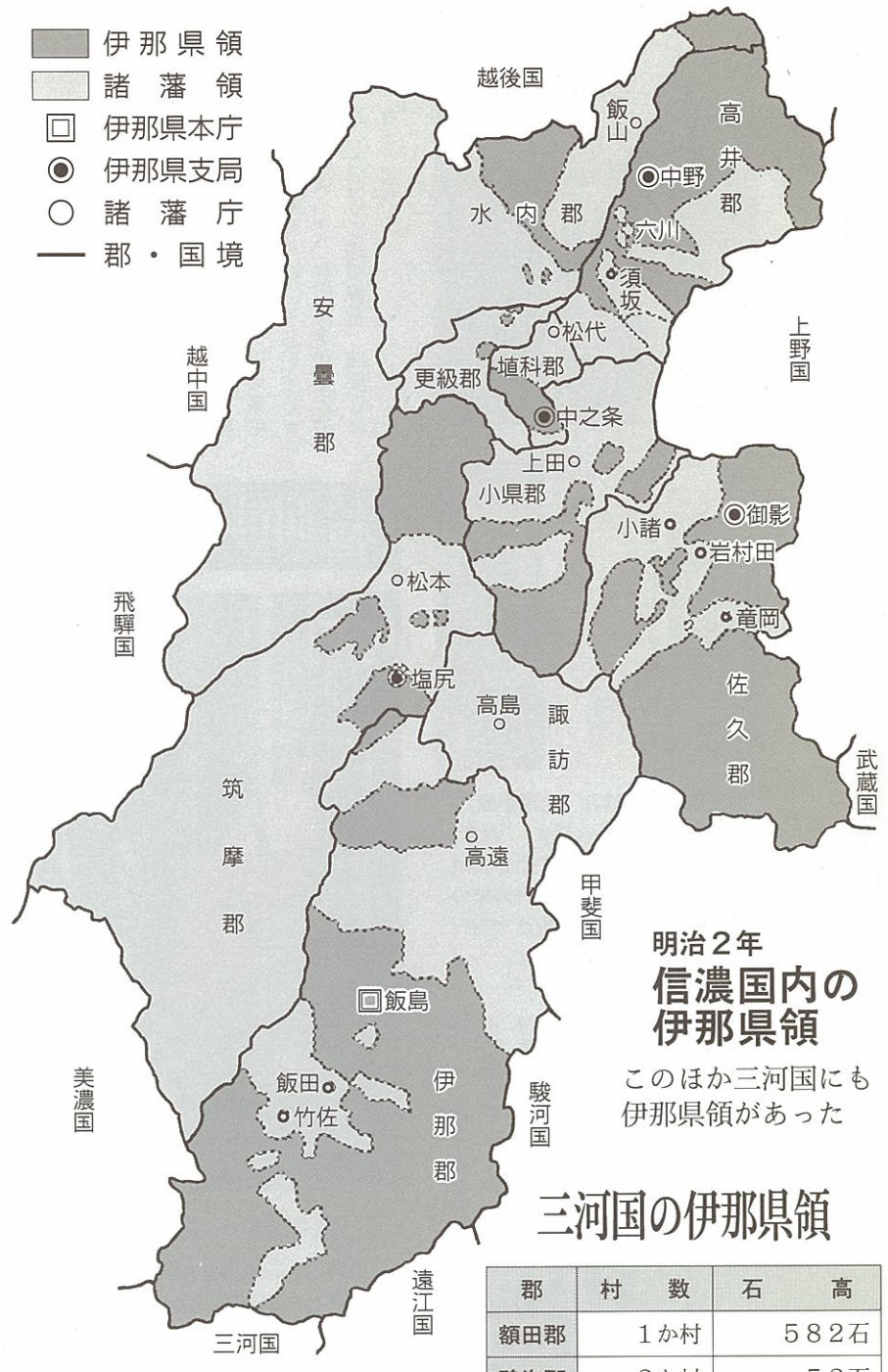
伊那県について

伊那県領の変遷



伊那県関係年表

年次	事項
慶応4年(1868) ※9月に明治と改元	2月　新政府が、旧幕府領を「天朝の御料」に戻したと布告し、信濃国の旧幕府領の支配は尾張藩に委任される。 3月　飯島ほか旧代官陣屋と塩尻に「尾張藩取締所」が設置される。 8月2日　新政府により伊那県が設置される。旧飯島陣屋(尾張藩飯島取締所)を県庁とし、知事に北小路俊昌を任命す。 10月3日　知事が飯島に着任する。 10月4日　尾張藩飯島取締所管下の村々36か村13,500石が伊那県に移管される。 10月　県政の趣意を掲げた「伊那県布令書」が出される。
明治2年(1869)	2月30日　塩尻(塩尻市)・御影(小諸市)・中之条(坂城町)・中野(中野市)の尾張藩取締所管下の村々が伊那県に移管される。 2月　伊那郡の飯田藩預かり所13,500石が伊那県に移管される。 2～6月　伊那・筑摩・佐久・小県・更級郡の旧旗本知行所が伊那県に移管される。 4月　伊那県の支局として、塩尻局・御影局・中之条局・中野局を開局する。 6月　筑摩・伊那郡の松本藩預かり所54,000石が伊那県に移管される。三河国加茂郡・設楽郡などの三河県と静岡藩の一部が伊那県に移管される。 7月　飯田で二分金騒動が起こる。 9月11日　三河国に足助局を開局する。 9月　伊那郡の千村氏・知久氏の預かり所が伊那県に移管される。 10月　「信濃全国通用銭札」を発行する。 11～12月　「伊那県商社」を設立する。 12月　高井・水内郡の松代藩預かり所が伊那県に移管される。
明治3年(1870)	5月　政府によって伊那県商社事件の取り調べが始まり、北小路知事が罷免される。これ以後、県の中心人物が失脚、県政の転換が図られる。 8月14日　伊那県分県の伺いが政府に出される。 9月17日　伊那県分県が認可され、中野・中之条・御影管下の村々154,472石が「中野県」に、飯島・塩尻・足助管下の村々168,634石が「伊那県」となる。 10月　永山盛輝が伊那県大参事となる。 11～12月　三河国の伊那県領で凶作の影響から騒動が起こる。 12月　林友幸が伊那県兼中野県権知事に任命される(翌年4月に免職)。
明治4年(1871)	6月3日　竜岡藩の廃止により、三河国加茂郡・額田郡の4,200石が伊那県に移管される。 7月14日　廃藩置県の詔書が出る。 8月　名古屋県の廃止により、木曽全域13,000石と、高須藩分の伊那郡15,000石が伊那県に移管される。 11月20日　府県統合により伊那県が廃止され、信濃分は筑摩県に、三河分は額田県に移管される。



明治2年
信濃国内の伊那県領
このほか三河国にも伊那県領があった

三河国の伊那県領

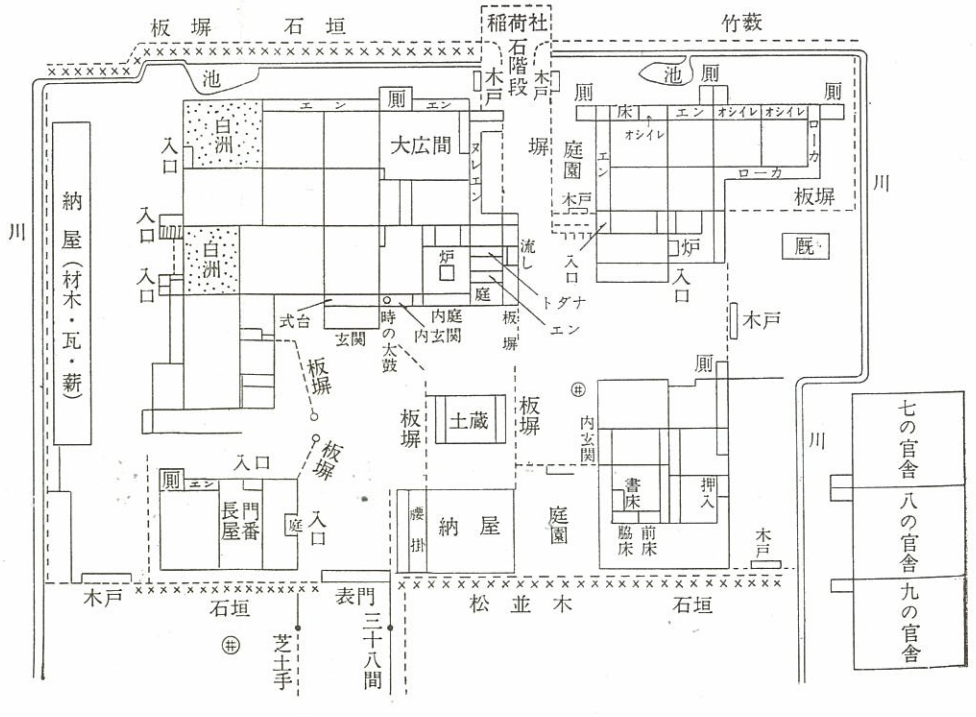
郡	村数	石高
額田郡	1か村	582石
碧海郡	2か村	52石
加茂郡	170か村	26,517石
宝飯郡	20か村	6,532石
渥美郡	1か村	87石
八名郡	5か村	2,778石
設楽郡	139か村	20,316石
合計	338か村	56,864石

(明治3年前半)

鳥羽伏見の戦いで幕府軍が敗れると、信濃国の幕府代官支配所は一時尾張藩の支配下に置かれますが、やがて旧飯島陣屋を県庁として伊那県が取り立てられることになりました。

慶応4年(明治元年)8月に成立した伊那県は、その後信濃国だけでなく三河国にも管轄地を広げ、最大で32万石が県域に入り、5か所に支局を置いて行政を行いました。しかし、明治3年9月に北半分を中野県として分け、明治4年11月には信濃分が松本を県庁とした筑摩県に、三河分は岡崎を県庁とした額田(ぬかだ)県に統合されたのでした。

江戸時代中期以来200年近くの間、伊那郡や信濃国の政庁だった飯島町は、このときその役目を終えたのです。



◀**伊那県庁の間取図**
(飯島中学校編『飯島町』より)～原図：林源次郎